

# FD ニュースレター

Health Sciences University of Hokkaido

北海道医療大学FD委員会

FD News Letter No. 4



## ■平成15年度「特色ある大学教育支援プログラム」に選定

### ～地域・大学連携による医療系基本教育～

FD委員会委員長 阿部和厚

ご承知のように、この度、北海道医療大学は、平成15年度の教育COEに選ばれました。これは、全国の大学、短大をあわせて約1200校あり、各大学で「特色ある教育」を各1件だけ申請でき、すぐれたものを選んで各大学の教育改善の参考にしようという文科省プログラムです。わたしたちの大学は、採択された80大学に入ったものです。

申請にあたっては、各学部から選ばれた委員によるプロジェクトチームでどのようなものが申請できるか2回ほどブレインストーミングし、さらにこれを参考に、小澤（看護）、小林（薬）、千葉（歯）、吐師（心）、横井（看護）と阿部（心）からなるプロジェクトチーム内作業班により、書類を整えることになりました。わたしはFD委員長というまとめ役で、そこにツーカーの頼りになる強力なメンバー。そして、採択。この大学の快挙です。

私がこの大学にきて早々、FD委員長に指名されましたのは、前の大学で長く教育改革に関わってきたことによるのでしょう。前任大学の取り組みも今回のプログラムに採択されています。全学支援の教養教育コアカリキュラム、FD、教授法開発、教育業績評価を連携させる総合的取り組みです。これらはすべて私が中心でつくりあげ、すでに全国的に知られるようになっていたものです。本学に就任して、

私のこれまでの実践的体験と、それを紹介するようにと招かれた全国のかず多くの大学での見聞から、この大学をみることになります。

私が、こちらの大学のFD委員長に任命され、まず想いめぐらせたことは、教育の全学的なまとまりということです。大学評価では、その大学の理念的、教育目標が、どのように実現されているかが問われます。独自の特徴ある教育が明確になってほしい。これが校風となり、この大学で学んでよかったと、在学生や卒業生に愛校心が育ってほしい。こんな思いで、昨年11月のFD合宿研修を企画、実施しました。「総合大学としての北海道医療大学における教育戦略」がFDのテーマであり、企画されていた教育COEを組織的取り組みが問われると紹介し、参加者は学部をこえた科目案を設計、そして最後に、この大学を卒業したというアイデンティティをもたせる授業の提案としました。そして、資料を全学でつかえるようにハンドブック化、本年1月には、この大学の特色ある授業を調査しました。これらは、すべて今回の教育COEで求められることを意識した動きでもありました。

いよいよFD委員会での応募となって、何が本学の特色とできるかを考えることになりました。本学は、薬学、歯学、看護・福祉、そして新たな臨床心理士、

言語聴覚士養成の心理学部の医療・福祉系大学です。倫理、コミュニケーション、チーム医療、インフォームドコンセント、課題探求・課題解決力などは、医療・福祉系に共通のコアであり、この教育は、本学の理念である人間教育と一致します。それに、今日の大学に必須の導入教育（受験から解放されて大学での学び方を身につける教育）を組み込むのはどうだろう。FDで提案されたコミュニケーション科目も参考に。これらは、知識というよりは態度を目標とします。入学早期からリアリティのある現場、社会連携で教育設計していくのはどうだろう。

今日、日本の大学では、教育改革が最も進んでいるのは、医学教育です。最近の医・歯薬学教育コアカリキュラム化がこれに拍車をかけています。しかし、特色という点では、全国の医系大学の教育改革は、内容があまりにも似ています。さらに問題なことは、専門完結型で、本当は医系でも問題になる一般性、導入教育や教養教育の視点が弱い。この点は現在すすんでいる医学教育改革の欠陥といえます。とかく医に対する社会的批判がおおく、現実にも多くの問題も起こしている医が、医である前に一般市民としての基盤を要求されているはずです。

こうしてみると、本学で医療系に共通の基本教育、導入教育の強化を一般的な視点からすすめることは、本学の特色を明確にすることになるのではないのでしょうか。

しかし、[特色ある教育]に応募となれば、組織的とりくみの実績が求められます。

実績ということでは、昨年の暮れ頃から本学のボランティア活動に注目していました。最近、大きく発展し、社会的にも目立っている看護福祉学部の横井寿之教授を中心とするボランティア活動。しかも、ボランティアセンターをつかって大学もしっかりと支えています。学生が町と一体となって、町を、地域を動かしています。

だが、課外活動を本学で「組織的に取り組んでいる特色ある教育」としてアピールできるのだろうか。

こんななかで、本年度、いよいよ正式な募集がなされ、予想のように、大学の理念目的、教育目標を

達成するために計画され、組織的に取り組まれている特色のある教育であることが問われていました。しかも実績のないものは出せない。

想いを胸に、申請のためのプロジェクトチームによるブレインストーミングで、皆さんの発言をきき、私の構想を確認。ボランティア活動も、カリキュラムで関係の授業科目を開始、これにより社会福祉士の合格率も上昇、大学院における研究にも反映がみえるなど、教育効果が明瞭になっていることがわかってきました。そのため、今回の申請は、上記の構想をすでに顕著な実績のあるボランティア活動を核に発展させるものであり、申請書ではこの実績をアピールして、構想を紹介することになりました。

北海道医療大学は、医療・福祉系の専門職業人養成が使命となっています。卒後、社会のなかで、チームのなかで専門知識・技能を発揮していかなければなりません。入学の当初から社会のリアリティに触れる教育が必要です。単なる見学から前進し、自ら社会に創造的に関わるのが、医療系に必要な基本資質をみがくことになるでしょう。ボランティア活動に主体的に関わることができるということは、まさに地域・大学連携による医療系基本教育のモデルとなっているわけです。これをモデルとして、入学後早期から、「地域・大学連携の授業法」をさまざまな科目にとりいれていこうではありませんか。そして、地域とは、大学のある地域にとどまらず、社会全体として広くとらえるとともに、学問の現場も社会ととらえることもできるでしょう。社会で必須のチームで仕事をする、協調性、これには学生同志、学生と社会人との共同作業・学習をとりいれ、学生が教室から社会へ出る、社会を教室へ招く、社会と共同することで、学びは大きく広がるはずです。

廣重学長は、これを進める特別委員会をつくり、教育の地域・大学連携を推進することになりました。

そして様々な連携教育を開発し、みなさんとともにこれらを実現していくことになるでしょう。そして、これが、本大学のさらなる地力となり、本学が、真に、全国の中でも輝いて特色ある学びのセンターCOL(center of learning)であることを期待します。

## 第2回北海道医療大学FD合宿研修 開催

### テーマは、特色ある教育の強化—地域社会連携教育の推進

昨年にひきつづき、わが大学のFD合宿研修が、各学部から10名から13名、計46名の参加者を集めて、廣重 力学長のもとに、11月29日（土）—30日（日）、ないえ温泉ホテル北乃湯で実施されます。世話役は、ディレクター 阿部和厚、タスクフォース 有末 眞、千葉逸朗、塚越博史、長濱亜希子、吐師道子、横井寿之 です。

参加者は、大学教育の基本、シラバスの書き方、授業設計法、成績評価法、小グループ学習学生参加型授業法、テーマ型PBLなどの方法を体験的に身に付けます。さらに、本年度、本学がCOL (center of learning) に採択されたことを機会に、テーマのように、本学の特色ある教育を強化するため、各サブテーマにそって地域・社会と連携する授業を設計してみます。

サブテーマは、1) 導入授業（フレッシュマンセミナー）、2) 共通科目、3) 医の倫理、4) コミュニケーション、5) 学生参加型授業です。このような枠で、地域、社会を巻き込んだ、リアリティのあ

る授業を設計、提案します。

さらに、最後には、自由な発想で、本学の特色となる授業を企画、提案します。

研修は、5グループに分かれてのワークショップ形式です。授業設計の順序にしたがって、5つのグループワークがあり、その都度プロダクトをだし、発表します。

各グループワークは、頭脳フル回転の効率的な時間に設定しています。時間に追われるという印象を持つ人がおおいようですが、限られた時間で効率よく仕事をするよい訓練になったという人もいます。何よりもよかったのは、普段話しをしない異分野の人たちと共同作業をしたこと、教育を論じたことなどだという意見が多くあります。

温泉もいいですし、夜の懇談も盛り上がります。生産的リクレーション感覚でどうぞ。

（下段写真：口重学長も参加されて開催した昨年度の研修風景）



## 新任教員研修開催の運びに

薬学部FD委員会委員 樋口孝城

FD委員会では本学に新しく籍を置いた教員を対象とした研修会をできるだけ早い時期に行うことを決定しました。本学の歴史、理念、目標を一日も早く知ってもらうことはもとより、事務機構も理解してもらうためのものです。また、例えばこれからの医療系教育について、参加者それぞれの意見などを述べあって、本学教員としての意識を高めてもらうことも大きな目標の一つです。

平成16年度の研修会は、入学式（7日、水曜）

前後の土曜日（3日または10日）にサテライトキャンパスで、午前、午後にかけて行う予定です。初めての開催ということもあり、参加対象は1年遡って、前年度（平成15年度）までの新任教員全員とします。開催にあたっては、現在本学在職中の一部の教職員の方々にもご協力をいただきますので、よろしくお願いたします。

なお、この研修は、私と有末歯学部FD委員会委員により企画いたします。

---

## 新たな「学生による授業アンケート」について

看護福祉学部FD委員会委員 鈴木幸雄

本年度後期から、従来のアンケート内容を見直し、新たな内容・形式で実施することになりました。特に授業の要素について構造化しているところが特徴になっています。つまり、総合的評点は授業形態や学生数、必修・選択の別などで大きく変わることからどのような授業であるかが分かる解析を可能にしています。本学では、現在教員評価の本格的な導入に向け試行が開始されようとしています。教員評価と関連して教育業績評価についても取り入れられ

る方向です。そのためには、評点、その他のアンケート結果を共有し、共通の認識をもつ必要があります。これに向けてFD委員会は、アンケート結果の公表について早急に検討し、試行に入ることを決定しました。

これらのアンケート集計、公表などに向けた企画立案は私と土肥心理科学部FD委員会委員により作業を進める予定です。

### 編集後記

今年は例年になく暖かいと思っていたが、“やっど”大学周辺がうっすらと白い綿雲で覆われた。そして、平成15年度の「特色ある大学教育支援プログラム」の申請が終わり、ほっとする間もなくFD合宿研修の時期が迫った。今、全国の大学では教育の質が問われているが、かつて、これほどまでに高等教育のあり方が問われたことはないであろう。本学の将来を考えると、このFD合宿研修が継続的に開催される意義は極めて大きいことを痛感する。(M・A)

発行日 2003年11月26日

発行元 北海道医療大学FD委員会

編集委員 阿部和厚、○有末 眞、黒澤隆夫、鈴木幸雄、高橋 大、○東城庸介、土肥聡明、○長田真美、中野 茂、西 基、樋口孝城、○溝口 到、森田 勲、飛岡範至 (○発行担当)